

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型児童デイ はぐぼん藤が丘駅前		公表日		2025年 3 月 10 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		日当たりを考えロールカーテン。物をあまりおかず広々。整理整頓を心掛けている。規定よりも広く、走り回れる空間を確保。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		できるだけ余裕を持てるよう、配置加算が取れるようにしている。パートさんにもとても助けられている。	ぎりぎりのところで頑張っている時もある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		段差がない。利用者の状況や天候により、エレベータの活用もしている。	トイレに手すりなどは設置できていない。座面が冷たい旧式なので、新しくできると良い。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日、窓、机やロッカー、床まで拭き掃除、掃除機の活用など怠らず行っている。レッスンによって机を移動させスペースを確保。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	オープンスペースの中で、キッチン側と窓側に2か所角のスペースを逃げ場としている。着替えは相談室を利用。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		個々の長期目標が設定されている。週報を管理者に提出している。支援内容の確認をミーティングで毎日行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		全般的なものや進路などに特化したものなどアンケートを定期的に行っている。アプリやメールの活用で密に連絡ができる環境。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		月初のエリアMTG、毎日の事業所でのMTG、毎日の送迎後、情報共有を行っている。ラインワークスの活用。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1	改善点があれば、スタッフで話し合い、実現にむけて行動している。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内で、社内研修など定期的実施。意見や感想などの報告書作成、フィードバックなどもで行っている。地域の部会への参加。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		毎月の利用票にて配信、配布している。保護者さまのニーズや事業所での課題を反映させて作成している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		送迎時、連絡帳、メールなど、こまめにニーズをつかむよう継続している。ニーズを確認し、支援会議を行っている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員同士の意見交換を行うことにより、いろいろな目から見て判断された計画書が作成されている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援計画書の内容は都度共有されている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		ミーティングでも都度、こどもの様子の共有を行っている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		5領域の観点から計画を作成できるような法人共通のフォーマットがあり、それを使用して作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	児発管を中心に意見を出し合っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		固定化しないよう、支援内容の記録を残したり、ネット等で新しい情報を仕入れて、意見を出すようにしている。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		同学年、他学年などの組み合わせを考え、小集団で行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		ミーティングが毎日ある。その時間で、特に支援が必要な子について打ち合わせしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		記録とともに共有。ミーティングを都度行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		一人一人の連絡帳を利用時に必ず記入。あとで読み返して支援の内容が分かるようにしている。レッスン内容をファイリングしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		日々のレッスン終了時に保護者様に支援の様子を伝えることにより、随時保護者様の意向をくみ取り、見直している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		会議の開催が伝えられた時は、積極的に参加するよう心掛けている。Zoomを活用した担当者会議も行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	事前に医療機関にご挨拶して、何かあった時はすぐに対応してもらえるような体制をとっている。	訪問に伺うこともあったが、なかなか継続できていない。保育園との連携は強化したい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3	保育園、幼稚園での様子は保護者様から詳細をうかがっている。	保育所や認定こども園との連携は取れていないので、今後は情報共有していきたいし、実際の活動を増やしていきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3	近隣エリアの利用者がいる小学校へは訪問をし、情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	4	機関センターに訪問し、情報共有はできているが、アドバイスをもらうまでには至っていない。	地域との連携はできていないので、今後連携していけるようにしたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	4		今後は地域の子どもや、法人のグループ内の保育園との活動を積極的に考えていきたい。平日の利用時間に機会を作りたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	連絡帳、メールの活用、送迎時に日々の様子を話している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	保護者会を行っている。子供たちに行っているレッスンを体験してもらうことで、日々行えることを伝えている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		管理者が中心に契約時に伝達している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		保護者のニーズを聞き、子どもに無理のないよう配慮して作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		目標設定の意図など、合わせてお伝えしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎時に時間をとって話をしたり、アプリやメールも活用。悩みを相談しやすい環境を作り、状況に応じて面談も行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		保護者会後に茶話会を開催し、保護者同士の交流する機会を設けている。レッスンの参観日や発表会なども行っている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		事業所内で共有、対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		事業所内の掲示物（写真）や、HPのブログ、Facebookで毎日の活動の様子を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報のファイルは鍵付きの書庫に保管している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		視覚的に理解できるように配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	地域のお店へ出向くなどのイベントを行っている。	地域住民と深く関わられるようなイベントを考えたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		法人として行っている。定期的に利用者を対象とした避難訓練を行っている。職員が確認できるマニュアルも準備してある。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		法人として社内研修を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		契約時に保護者への聞き取りを行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	契約時にアレルギーの有無や、対処法などを保護者からの伝達してもらっている。医師からの診断書が必要な重度の利用者はいない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		法人で共通の資料の活用。定期的な避難訓練の実施。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	2	契約時に指定避難場所の確認など伝達。	継続的な周知は今後徹底していく予定。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットのファイルをいつでも手に取れるところにおいて、確認できるようにしている。法人全体でも共有する場がある。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		法人として行っている。委員会の開催や研修など年2回実施を徹底し、知識を広げる機会を作っている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	1	契約時に説明、別冊で同意、サインをいただいている。		